

上口雅彦キューバ旅行記

旅行日程(1996)

8月31日 大阪ー成田ーサンフランシスコーメキシコシティ(1泊)

9月1日ー9月6日 ハバナ(5泊6日)

9月6日 ハバナーメキシコシティ(1泊)ーサンフランシスコー成田ー大阪

8月31日メキシコ 9月1日キューバ 9月2日 9月3日 9月4日 9月5日ー6日 9月6日ー7日メキシコ

日本で収集する情報(●インターネット●旅行会社●インターネットでメキシコの旅行代理店を見つける)

●キューバ国内の飛行機のフライト情報

キューバ国内ツアー情報収集の方法

キューバでの一般的な支払い方法

イベント、ライブなどの情報収集

タクシーの乗りかた

CD & VIDEOの購入

ハバナのホテル情報

8月31日

成田からメキシコへ(メキシココーナーへ)

9月1日

メキシコシティ発

朝4時起床。5時にホテルを出てタクシーで空港へ(\$8)。空港で日本人の一人 旅の男性、加藤さんと出会い同じ飛行機メヒカーナでハバナへ。彼は同じ飛行機で日本 から来て、昨日は空港近くの\$100以上するホテルに一泊しどこにも出掛けなかったそうだ。約3時間でハバナへ到着。

キューバ、ホセ・マルティー空港からホテルへ

ハバナに到着したところで、NHKBSの取材班(野球を中心に取材)と、日本で公演しキューバに帰ったところのバンド(HABANITA)と話を。入国手続きは簡単であったが、もともと入国する人が少ない。管理官に帰りのキップの提示を求められた。税関はなかった。空港自体は質素なもの。

空港を出ると加藤さんの頼んでいた ツアー会社が出迎えており、彼は日本語がペラペラ。私は予約していなかったが、同じ日本の旅行会社の代理店だったので、明日のパラデロ行きのことを話すと手配してやる からと言われ、いろいろ時間がかった挙げ句、私の本日の

ホテル・リビエラ で手続きをとることに。加藤さんは直接パラデロへ行く予定だが、途中となるホテル・リビエラまで一緒に行く。出迎えの車はベンツのバス。乗 客は2人だけ。\$20支払う。ホテル・リビエラ到着後、パラデロのスーパークラブリゾート(キューバ国内ツアー情報収集の方法)を 申し込む。\$140(食事、イベントすべて込みの料金)。往復の車代\$60(日本から予約すると\$100)。ホテルの予約にクレジットカードが使えず、キャッシュとなる。車代のみカードが使えた。(一般的な支払い方法)

旅の始めは散歩から

ホテル到着後、その後の日程(イベント、ライブなどの情報収集)を立てる。まず、翌日の朝の半日セントロツアーを申し込む。\$10。セントロまでタクシー(タクシーの乗り方)で片道\$5ぐらいなので、結構安いツアーである。そのほかのツアーを相談したりして一応の計画を立てる。また、チカブーンの森村さんから紹介いただいた河野さんと連絡を取り、パラデロから帰ったらお邪魔したい旨を伝える。

プールサイドのバンドを見てから、徒歩でハバナ新市街地VEDADOを歩く。ホテル・リビエラから ホテル・プレジデンテまで約10分。あと中心部まで歩くのも結構遠くて、タクシーをひろう。セントロまで\$3。白タクであるが、交渉の末でOK。この白タクは、知り合いが民宿をやっているののでぜひ案内したいとしつこいので、とりあえず行ってみる。新市街地の普通のキューバ人の家で、一室をかりれる。\$35。日本人も泊ったことがあると言っていたが、まあ、安全な様子である。聞くと、キューバ人は米ドルがほしいがために、個人で商売をやっているのだそうだ。社会主義国というイメージがなかなか沸いてこない。

ホテル・プラザやイングラテラを見学。どこも1泊\$60ー70ぐらいで結構高い。そのまま、CD販売をしている店を探す。すでに7時を過ぎており、どこも閉まっていた。海沿いの公園には日本の終戦後の子供たちのための小さい遊園地といったものがあり、多くの人が列をなしていた。日曜日でもあったので、夕方 の一時といった感じであった。

それから、ホテル・リビエラへ帰る。帰るとホテルの前の広場が野外ディスコになっているではないか。キューバ人が集まり取り巻いている。だが、中心のところで踊っている人はなぜか少ない。サルサありブラックものありいろいろ。ところで、ホテルのテレビには、マイアミからの衛星放送が受信され、アメリカのテレビ番組が普通に見れる。音楽もの政治もの野球、フットボールなど何でもあり。野外ディスコでは、黒人の男性が言い寄ってきて、パラシオ・デ・ラ・サルサに行こうという。そこで、パラシオ・デ・ラ・サルサに行くと入り口でチェックを受けて彼は私とは関係ないということで入場を断わられていた。また入り口には聞いていたとおり、綺麗な女の子がたくさん待っており、男性がくるのを待って、入れてもらおうとしていた。

“ホテル・リビエラとPalacio de la Salsaの入り口”

噂のクラブEL PALACIO DE LA SALSAへ

入 場料\$ 10。村上龍の映画「KYOKO」のラストシーンに使われたところで、キュー バNO1である。ステージの前にあまり
広くないダンスフロアがあり、テーブル席が雞 壇状につながっている。オープンは午後9時ごろ、バンドは、10時半ごろから
2時ま でで、2バンド出演する。私が行ったときは、ボーカルの女性2人のサルサバンド「S ARABANDA」で乗り乗り。2バ
ンド目は、メレンゲ&サルサの「HAVANA MANBO」、ステージに女の子をあげて踊りのコンテストをやったり結構楽しい。
ダンスを踊っている中でイタリア人カップルは回転が早く見ていてすごかった。キューバ 人のようなしなやかさは無いもの
のうまかった。そのほかにもキューバスタイルのダン スをみんな踊っており、うまい。お客は旅行者が多く、イタリア、ドイツ、
スペイン、メキシコあたりが多かった。もちろんキューバ人もいるのだが、多くは女性。私も席につくやいなや女の子が3人
よってきて座り、あれやこれやと話す内に、お金の話になったりした。ゲームもしたいとかで、\$ 1出してくれとかうるさい。結
局3時ぐらいまでいて帰る。

[上口さんへのメールはこちらへ](#)

[次へ](#)
[トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)
[YUMURI Home Pageへ](#)
[MARACA Home Pageへ](#)

9月2日

午前・ハバナ、セントロ・ツアーへ

朝9時からバスでセントロツアーへ。同じホテルに一人で来ていた日本人といっしょになる。立命館大学国際関係学部専任講師・南野泰義さん。キューバは2回目、キューバの歴史を研究しているとのこと。

訪れたところは、モーロ要塞(スペイン植民地時代の頑強な砦)、セントロが入り江を挟んで一望できる。それから、CUBITAコーヒー販売店。それから、カatedral、市博物館の前を通る。このあたりはすくなく観光地といった様相。子供達が勉強しているところもあり、クラシックカーを展示しているところもあり、ぶらついて楽しい。それから、昨日行って閉まってしまっていた「PARACIO DE ART EANIA」(No64 LA HABANA)へ。CDを1枚買う\$17。ここでも試聴が可能。お土産もたくさんある。午後7時まで営業。たいしたツアーではないが、一応中心部の雰囲気に分かる程度。安全な感じである。



午後から世界一美しい海岸、バラデロへ

ホテルに戻り、チェックアウト後、バラデロを目指しバスを待つ。ロビーでCDを数枚買う。結構はやりものを売っていた。CDリストは最後に記載する。バスは、セントロまで様々なホテルの客をひろい、バラデロへ向かう。この時午後2時の出発予定で、実際にバラデロに着いたのは午後5時を過ぎていた。3時間ぐらいかかった。途中はヤシの木の森もあり、とても雰囲気がいい。バラデロへ行くのには、定期バスがなくツアー会社のバスに乗り込むため、どうしても午後2時の便になってしまった。ツアー会社にこれでは困ると主張したが、結局選択の余地なしとなって、この便で行くことになった。他のツアー会社にあたればもっとよかったかもしれない。これでは、バラデロに行くには不都合で、バラデロはビーチなので、朝から行きたいものである。そのためには、多少お金がかかるが、バラデロ・ワン・デー・ツアーに乗り込むのがいいのではないかと。朝7時半ごろに出発し、午後8時ぐらいに帰ってくるもので、ビーチでマリンスポーツもできるメニューもある。料金は\$35。往復料金。片道だけでも\$30取られたので、これは格安である。もし、1泊するのであっても朝早く出発できることを考えれば、片道だけ乗る価値は十分ある。というのも、私の目指していた、ホテル・スーパーリゾートでは、昼にサルサダンス教室などがくまれている、マリンスポーツも何でもできるのであるが、午後5時で終了してしまうのである。残念であった。

SUPER CLUBS CLUB VARADERO(観光)

PHONE: +53-5-667030 / 31 FAX: +53-5-667005

1996. 8. 6-12. 20の料金 JUNIOR SUITEの場合、

ツイン\$115 ダブル\$140 以下のすべてが込みの料金で結構楽しめる。

食べ放題、飲み放題。ただ、オープン後20年が経過している。バーのフリードリンク(プールサイド、ビーチ、ロビー、ピアノバー、庭、ディスコ)。ビーチ、自転車、ディスコ、ゲーム、ジム、ジャクジー、レストラン、バスターバー、テニス・バスケット(指導込み)、スクーバダイビング、セーリング、ウインドサーフィン、水上スキー、カヤック(機器や設備込み)、マッサージ。イベントとしては、ダンス教室やミスコンテストなど。

ダイビングは一日研修があり、次の日は沖合いにボートで出ることができる。食事、バイキングあり、イタリア料理ありで充実していた。

私の場合、マリンスポーツに挑戦したかったが、波が非常に高くその日はキャンセルになってしまった。しかし、ジムでダンスのレッスンを受けることができて、キューバ人のインストラクターにサルサダンスを教えてもらった。基本的なものだけだったが、キューバスタイルのパターンがよくわかった。また、練習の仕方としては、タオルをもって、壁にかけて練習したらいいと教えられた。あとは、ビーチでゆっくり休んだり、泳いだり、水の透明度はかなりよかった。魚も泳いでいるのを見ることができた。



屋には巨大なカフェテラスで食事。4人組みのバンド(ボーカル、ギター、フルート、パーカッション)が席まで来てくれてスタンダードなラテンナンバーを奏でてくれて、これが結構素朴でよかった。ボーカルの女性が使っていたマラカスがよかったので、売ってほしいと頼むとこの音はなかなかいいので、だめだといわれ、ホテルの庭で売っていた同じ物を買う。\$3。キューバの文字が入っていてお土産になる。お客の中には新婚旅行客もいてみんなリゾートしていた。外からは、宿泊客しか入れないように、警備員が見張っている、安心である。夜のカラオケバーでは、ヨーロッパ人がステイティングの曲をみんなで合唱していた。また、イタリアレストランのボーイと仲良くなり、サルサのことやキューバ娘のことをワイワイ話した。このディスコは、専属の生バンドが入り、ラテンのポップナンバーなどを中心に演奏していた。しかし、月曜日だったせいか、客も少なく、踊る人はほとんどいなかった。演奏自体はよかった。

HOTEL TUXPAN(ホテル)

AVENIDA DE LAS AMERICAS-VARADERO

TEL:53-5-667560, FAX53-5-667561

ここは、スーパークラブの隣にあるホテルで内容は充実している。プール、レストランも素敵である。ここでは、夜になると屋外でミニキャバレーショーをやっている。ダンサーも結構うまくラテンナンバーをバックにエナジーッシュにおどる。後半、生バンドの演奏のみとなり、サルサをガンガン演奏していた。シングル\$100、ダブル\$150。朝食・夕食・ディスコ入場料等込み。代理店を通すと20%OFF。ヨーロッパからの客が多い。

LA BANDA(ディスコ)

HOTEL TUXPANIに併設されているディスコ。\$5。CDのみで日本と同じ曲がかかるディスコであるが、途中にサルサを中心としたラテン・ナンバーがかかる。マカレナもやっていた。ここで見たサルサダンスのカップルのうまさには、すごく感激した。キューバの中で一番であり、もちろん私が見た中ではもっともすばらしかった。ただ、ビデオは持っていなかったの、撮影はできなかった。回転の速さもさることながら、すごいテクニックと、回転しながら、キスをするという鮮やかな技の連続でほとんど回りっぱなしであった。二人とも背が高く、カッコイイ。曲はManolinの曲で、この曲は他のディスコでも何度もかかっていた。曲目は不明。次のサルサタイムにこのカップルのダンスを撮ろうと隣の私が泊まっているホテルへビデオを取りに帰ってきたものの、サルサがかからず、結局彼らは帰ってしまうことに。私は帰り際に一言ダンスがとてもうまい、感激したと伝えただけで、残念だった。しかし、彼らとは、後日ハバナで会うことに。女性はイタリア人で、男性はキューバ人。

このディスコでもうひとつびっくりしたのは、日本人の若い男性がキューバ人と、サルサを踊っていたこと。これがかなりステップをマスターしていた。はちまきと日の丸の扇子をもっていたので、日本人とわかった。ここのディスコは、バラデロでは、とても評判らしい。ホテル関係のキューバ人の従業員も夜勤務が終わると踊りにくることも多い。主には、ヨーロッパからの観光客が多い。入り口の従業員が年配だったのでキューバ革命のころについて質問したが、小さかったのであまり覚えていないとのことだった。なお、このほかのバラデロでいいディスコは、HOTEL INTERNATIONALHのHABANA CLUBだそう

[上口さんへのメールはこちらへ](#)

[次へ](#)
[トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)
[YUMURI Home Pageへ](#)
[MARACA Home Pageへ](#)

9月3日

パラデロから再びハバナへ

ホテルの周りを自転車で回ったり、ビーチでくつろいだり、バンドの演奏を聞いて過ごす。ホテルのスタッフは統一したリゾート風のユニフォームでなかなかカッコイイ。ビーチを歩いていると、キューバにくるとき出会った加藤さんにバッタリ会う。彼は、旅行代理店の紹介のホテル(5000円ぐらい)に2泊しているが、海に面していないとのこと。したがって、マリンスポーツ関係の施設がない。彼は、ゆっくりビーチでくつろぐこととしているのだそうだ。

午後にハバナへ帰るバスの便が同じで、一緒に乗り込むこととなった。午後2時出発。バスには、パナマから来た団体客が乗り込み、相当盛り上がり、すごくなるさかった。途中バスが立ち寄った休憩所には、なつかしのラテンスタンダードナンバーを奏でるバンドがいて、キューバの古きよき時代を思い起させる。バンドは、全体的に年齢がかなり高くそれがまたいい。女性ボーカル、3弦ギター、ウッドベース、パーカッションの4人。例のパナマのおじさんがせかし、私もマラカスで参加した。

セントロから20分ぐらいのプラヤ地区にあるホテル・コパカバーナへ。ここのホテルはリゾートホテルとなっているわりには、値段も\$70以上であるが、あまりよくない。ホテル・リビエラが数段上。ここのホテルは泊るのではなく、キューバ在住の河野さん宅がここから歩いて2分ぐらいなので、ここで待ち合わせることに。加藤さんもしょにということで、電話で河野さんに了解を得る。午後6時ごろに河野さんが迎えに来てくれる。

河野さん連絡先(コーディネーター)

日本から連絡する場合はファックスで。時差の関係で日本の昼間に送ると問題なく送れる。FAX:
001-53-7-33-2344

チカブーンの森村さんとE-MAILでやりとりしているなかで、紹介してもらったもので、電話番号とファクスも教えてもらい、日本から連絡をし泊めてもらうことになったもの。日本からも音楽関係者をはじめ多数の人が訪れているとのこと。ライブを見ると夜遅く帰るので、迷惑ではないかと心配したが、日本から来る客はみんなそうなので、遅く帰るのは当たり前、何時でも帰ったときにベルを鳴らしてもらえば玄関を開けるとのこと親切。玄関には鍵が3つぐらいつけている。河野さんは音楽関係のコーディネーターをしている。キューバ音楽のことを記した「新世界のビート」は、村上龍と河野さんの共著。映画「KYOKO」では、いろいろ撮影のプロデュースをされたとのこと。河野さん自身は、キューバ人の奥さんと住んでおり、本職はキューバのバンドのパーカッション。バンド名はDIAKARA。リーダーは元イラケレのオスカル・バルデスで、はやりのキューバ音楽を演奏している。リハーサルをやっているのだから来てもらうのは構わないと住所を教えてください。

AVE. 51 E SQ A 92 MARIANAO, CIRCULO JESU MENENDEZ.

河野さんから、生バンドを聞けるところを何軒か紹介いただく。

PARACIODE LA SALSA,
CASA DE LA MUSICA, CAFE
CANTANTE,
LACECILIA.

紹介していただいたのは、すべて行った。その感想は後で。

また、サルサ・ダンスを習いたいとお願いすると、手配してもらうことに。一流のダンサーに1時間のレッスンで、男女ペアできてもらうことにした。河野さんはキューバでは有名で、音楽博物館でも知っているといわれたり、ダンスレッスンでも河野さんの紹介だからとなんとかきていただいたようで、河野さんの力には感謝している次第である。とりあえず、コーヒーを出してもらったりしてくつろぐ。食事をホテル・コパカバーナでとる。ここでは、キューバのメインイベントCABARET TROPICANA(トロピカーナ)への送迎バスを待つ。バスには、リビエラであった南野さんも乗っていた。

CABARET TROPICANA(キャバレー)

Linea del Ferrocarril y 72 e/41 y 45, Marianao, La Habana
TEL:205144, 204115, 330174, 207505, 202421

月曜日は休み

席は、3種類。特別席\$55、A\$45、B\$35。ビデオ撮影は\$15、写真は\$5プラス。ツアーだと送迎で\$5。食事や飲み物込みだとランクがありさらに追加される。直接現場で入場料を買っても同じ値段。私は入場料のみで特別席をとったが、飲み物を別に注文するため、飲み物込みでも料金はあまりかわらない。ショーは9時半からであるが、だいたい20分ぐらい前に到着。大きな野外劇場で、円形ステージに放射状にテーブル付きの客席がある。ステージに向かって右側上に生のバンド、オーケストラといってもいいぐらい、が位置し、左側の奥にも壇上のステージがある。客席の中にもせり出しのステージがある。



ショーがスタートしたのは、9時半かきり。サルサ音楽を中心としたショーで衣装もすごい、ダンスもすごい。ボーカルも4人ぐらい出演し、どれも乗り乗り、途中ベサメ・ムーチョではセクシーなダンスもあったが、だいたいエナジーギッシュな乗りであった。音楽が決まっていて、最高。ただ、ナレーションがほとんどなく、ブラジルで見たサンバショーのように、コミカルな動きや南米独特のお客の国を呼びかけて盛り上げたり、ステージにお客を上げて踊らせるということとはしなかった。そんなことはしないほうがよいようなすばらしいショーであった。中で、CDも売っており\$13、2枚購入。パンフとか写真集\$35も買ってしまった。結局ショーが終わったのは、午後11時を回っていた。

余談であるが、バックの中でビデオのスイッチが入りっぱなしで充電電池が少なく、少ししかビデオがとれなかった。また、カメラにフィルムをいれたところ、自動的にセットされず逆にフィルム側に巻き込まれてほとんど写真がとれなかった。運がなかった。

トロピカーナを出て、いったん河野宅で少し休憩後、午前零時ごろ"CASA DE LA MUSICA"へ。

CASA DE LA MUSICA(クラブ)

CALLE 20 #3308, ESQ A 35, P LAYA プラヤ地区にあるライブ&ダンスクラブ。住宅街の中にあり

外から見ると 大きな家といった感じ。タクシーに住所を示していけば確実に着く。入り口入ったところには、キューバの往年のミュージシャンの顔写真が架けてある。

ライブはまだ始っていない。入場料を払おうとすると、そこから出てきたキューバ人の女の子二人がいっしょに入ろうと誘ってきた。普通の子であったので、いっしょに入った。ダンスが好きなようでかなり踊った。客は火曜日ということもあって、少なくあまりダンスを踊ろうという感じではなかった。ステージは1M50CMぐらいと結構高い位置にある。場所はそんなに広くはなく観光客も少なかった。ほかのクラブが大きかった ので、そういう感じがしたのかもしれない。バンドの演奏もサルサ、チャランガ。他の クラブに比べひけはとらない、結構乗り乗りでよかったのだが、人が少なく寂しい。週末だともっと盛り上がるだろう。バンド名は"CLAVE Y SON"。ここにも日本人 が来ており、女性一人でバンドを待っていた。話し掛けるとかなり前から待っていたようで、始ったのが、12時ごろだったので、数時間待っていたようである。彼女は翌日 日本に帰るということだったのだが、河野さんバンドのことを伝えと、ぜひリハーサルを見てみたいということになり、結局空港へ向かう途中で寄ったとのこと。ところで、キューバの女の子たちは、このプロデュースをやっているお兄さんだといって男のキューバ人を紹介したりしたが、そのうち一人がタクシーで帰るので\$5くれないかという。たいした金ではないが、この手の話にはうんざりしたので、きっぱりダメだといって外に出ることに。外にはタクシーが待っており得意の交渉で河野宅まで帰る。基本的にメーターはついていない。

[上口さんへのメールはこちらへ](#)

[次へ](#)
[トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)
[YUMURI Home Pageへ](#)
[MARACA Home Pageへ](#)

9月4日

ハバナでサルサ・ダンス・レッスン

河野宅で、ぐっすり眠って起きると、河野さん はすでにリハーサルに向けて出掛けいらっしやらない。奥さんやメイドの方と
いろいろ 話をした後、出掛ける。まず、ビデオを買うため、河野さん紹介のブラヤ地区の
VIDEO CLUB(3ra y 30)
に行くがわからず、リビエラのCDを売っている人に聞いた
VIDEO IMAGENS(3ra y 28)
へ。それから本日 の宿泊先のHOTEL PRESIDENTEへ。すでに、昼になろうとしていた。ホテルに河野さんの 奥さんが訪ね
てくれて本日のダンスレッスンを手配できたことと時間を告げに来てくれた。夕方、ホテルで待ち合わせることに。それまで、
市内観光をすることにした。

★VIDEO IMAGENS(CDショップ)

(3ra y 28) 名刺には、VIDEO CENTRO(CALLE 3ra No1260 e/12y 14/Miramar, Ciudad de la Habana)
TEL: 33-2469, 33-1782

VHS のビデオを売っているが、定員はすごく不親切。音楽物を探しているといってもその内 容はあまり知らずそこにあるだけ
という。ビデオといってもほとんどがPAL方式。日本・アメリカはNTSCなので、変換しないと見れない。ここでは、"LOS
VAN VAN"これは、唯一のNTSC。と、キューバのショーのダイジェストと、"MUSICA DE AYER DE HOY DE SIEMPRE"を
購入。\$15から\$20ぐらい。CDも売っており、\$17ぐらい。
詳しくはCD & VIDEO購入へ

ホテル・プレジデnteから、近いといわれる国立民族舞踊団(folklorico)を探すクラシックダンス学校はわかったもの
の、分らずあきらめる。その後、ホテル・ハバナ・リブレの前の音楽専門店"TIENDAS ARTES"へ。その後、国立音楽博
物館、革命博物館を見てホテルに帰る。
町中で中学校の体 育の授業を歩道上でやっていたのは、なかなか楽しそうでほほえましかった。

★TIENDAS ARTES(CDショップ)

Calle L y 23, Vedado 音楽専門店、新市街地ホテル・ハバナ・リブレの前にある。ビデオはなかったが、CD
は充実している。ニューヨークサルサもあり。値段は\$17。そのほかにもコン ガも売っており、専門店として
は一番数が揃っているようであった。ただ、他の店でいろいろ見ていたので、ここでは一枚も買わず。

★Museo Nacional de la Musica(博物館)

国立音楽博物館

Capdevila 1 e/Habana y Aguiar, La Habana Vieja

月曜日は休み。TEL: 61-98 46。入場料は\$2。ガイドブックには無料というものもあったが、新聞にも\$
2とあったので、変更になったのかもしれない。売店にCDが沢山あったので、いろいろ試 聴させてもらい数
枚購入。結構店員はひまそうで、ダンスの格好をすると結構楽しく会 話が発展する。店員のMARIAが写真
を撮って送ってくれというので写真を撮る。また、小さなホールでリハーサル中というボーカルの女性が休憩
でその店におり、いろいろ話をする。練習を見に来いとか、博物館のガイドはいらないかと世話をやいてく
れる。まずは、ガイドを\$1でお願いする。スペイン語のみであったが、結構意義はある。入り口にはBEN
NY MOREの写真やレコードが陳列されているほか、2階には アフリカから来た奴隷がもたらした楽器が部
族ごとにならべてあったり、世界各国の弦 楽器やピアノなど様々な楽器が展示されている。中でも、面白
かったのが、キューバ音 楽を奏でる楽器の数々の実演。ガイドが実際に展示品を操作するのであるが、レコ
ード より前の筒上の録音装置や、かなり古い蓄音機、自動演奏のピアノ(足で動かす)、紙 に穴があいてい
てそれで鳴らす楽器(楽器名は控えていない)、オルゴールなどなど古 き良きキューバ音楽の当時そのまま
の音が鳴り響く。タイムスリップした感じである。\$10で、5分間のビデオ録音をさせてもらった。小さい博物
館であったが、この展示 は印象深かった。後で、小さなホールへ覗いてみると、確かにバンドがリハーサ
ル中で あった。特にフロントのダンサー3人が練習中で生演奏とテープで何度も練習していた が、ダンスは
あまり決まっている風ではなかった。バイオリンも入っていた。このバンドはブラジルで演奏するためにリハ
ーサルをしているとのこと。翌日にはプロモーションビデオを撮影する予定だとのこと。バンド名は、
ORQUESTA PANORAMA。Director はDirectorは、Alberto Corrales subda(Calle 6#11, e/A y Soleda,
11100. tel : 97-9243)。ボーカルの女性は、Caridad Cruzvilain。

★ MUSEO DE LA REVOLUCION(博物館)

革命博物館

Refugio 1 e/Monserrate y Zulueta

tel: 62-4091 入場料\$3、月曜日休み

革命博物館とあってキューバ革命の様子がカストロやチェゲバラの戦 いぶりを図や模型で示したり、記録写
真や新聞、実物の戦闘服、ピストルなどが展示さ れていた。また、マルクス、レーニンなどの写真や記録も
あり、キューバ以外のことも 多く説明されている。写真撮影にはお金がかかる。ガイドをお願いすることも可
能。展 示は結構多いので、一通り見るだけで疲れてしまうほど。1959年の革命に至るまでの記録写真に
出てくるカストロやチェゲバラは歴史を変えた若き戦士で当時の様子が伝 わってくる。彼らが、メキシコから
渡ってきた大型のボートも展示されているが、見た 目には意外と綺麗なボートである。ほかにも、革命時に
使われた戦闘機、自動車などが 展示されている。ここの売店には、CDを売っていたが、中でもわらわりの
帽子が\$3 と安くカッコよかったので買った。

サルサ・ダンス・レッスン

河野さんに手配してもらって、一流のダンサーの二人がホテルまで来てくれた。彼らは、日本にもダンサーとして来日したこ
ともあり日本が気に入っていた。イチ・ニ・サンとカウントを日本語でしてもらった。1時間いろいろなステップを4種類ほど手
ほどきを受けた。ニューヨーク風とはまた、違っており、こちらまたカッコイイ。彼らの教え方はとてもうまく、話し方も穏や
かで知的でしっかりした方だなと感じた。彼らが住んでいるところは、ここから遠く早めに帰らないといけないとのこと、ち

ようどいい時間で終わった。◇キューバでは、キューバ人がホテルの客室に入るのは、売春のこともあり禁止されているので、レッスンをどこで受けるかが問題となった。あれこれ協議し、近くに程良い場所を見つけてのスタート。いきなりのレッスンで私が理解できずにやみくもにステップしているので、向こうもイライラしている様子が伺われ、時間がもったいなかったなと後悔した。◇ホテルのレストランでゆっくりと食事をしてから、午後10時ぐらいからLa Ceciliaへ。

★La Cecilia(ライブ・レストラン)

5ta.Ave y 110, Miramar

tel: 33-1562

木曜日から日曜日まで。たまたま水曜日もやっていたので行くことに。入場料\$10。

野外で、ライブ音楽と食事などが楽しめる。緑に囲まれ雰囲気はすごいいい。バンドは2つ。これも平日なのか人が少ない。一つ目のバンドは、女性ボーカルも入ってインディアの曲も歌ったりしたが、全体的に演奏はうまくない、このバンドには6人の女性のダンサーの踊りがあったが、トロピカーナを見た後ではとても比べようもないレベルだった。そこで、今回は、CDも出している次のバンド“Juan Carlos Alfonso y su DAN DEN”がお目当て。一つ目のバンドとは全く違い演奏はカッコイイ。これは聞く価値あり。乗せかたもうまく女性客をステージに上げて踊ったりした。私たちのテーブルの横にはイタリア人旅行客とキューバ娘が来ていたり、キューバ人のカップルで薬はやらないかと冗談まじりで言われたり、新婚なのでビデオを撮ってくれとせがまれたり、結構いろいろなことがあった。ここでもキューバ人でかなりうまい踊りをするカップルを発見。ビデオをかなり撮影した。あとで話し掛け、一緒に踊ったりしたが、乗りにはついていけない。また、例のごとくゲームがしたいといわれ、\$1出してくれとせがまれる。これにも懲りて適当なところで、演奏も終了していたので、帰ることに。

[上口さんへのメールはこちらへ](#)

[次へ](#)
[トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)

[YUMURI Home Pageへ](#)

[MARACA Home Pageへ](#)

9月5日

ハバナ、アクシデントは旅の付き物

今日はゆっくりと市内観光をして、その後 河野さんのリハーサルを見る予定を立てる。でも、最悪の一日に。朝8時過ぎにはホテルを出て、市内バスでセントロへ。市内バスに乗るにはキューバ人のお金を使わなければ乗れない。どこかで変えてもらうしかない。そこで英語の話せる女性が親切に 話し掛けてくれたものの、案内してあげるとかセントロを降りてもついてくる。私は、音楽博物館で昨日の蓄音機の音楽をビデオ撮影しようと早いうちに行く決めていたので、とりあえず振り切って目的地へ。無事撮影を済ませたのち、市立博物館へ。中心部のみどころあたりは固まっているので、徒歩で回って十分である。

★市立博物館(博物館)

MUSEO DE LOS CAPITANES CASA DE GOBIERNO

ヨーロッパのツアー客が多い。博物館であるため、生活用品が展示されている。中庭があるがそれに面した壁に掛けてある写真が、カストロやチェゲバラを中心とした革命の写真。これが写真として完成度が高く、いたく感激した。ここの売店でもCDやキューバ音楽ビデオを販売していた。ここの博物館前では、古本市が開かれている。結構目につくのが、革命の本。表紙にカストロやチェゲバラの絵があるのでわかるのだが、歴史を勉強するにはいいのではないかな。

★ボデギータ(レストラン)

ヘミングウェイがよく行ったという酒場。こじんまりとしており、入り口を入るとすぐにカウンター。奥にはテーブル席がある。壁のいたるところにメッセージなどが書かれている。

★カテドラル(観光)

ボデギータ から30秒。カテドラル前の広場は、原宿みたいでやたらお土産屋が並んでいる。周りの路地にもところ狭しと出店が続く。出店でマラカスやクラブを買った。\$3ぐらいだったと思うが、あちこちの店で売っており、値段も形も違う。変に高いところもあるの ですぐに買わない方がいい。カストロの小さなお人形が\$1でとてもカワイイ。カテドラル自体には入れない。

★エル・パティオ(レストラン)

カテドラルの広場に面しているレストラン。なかなか感じがよい。中で、ラテンナンバーを生演奏していたので、食事がてら聞いた。バンド名 は、Sabor tipico de Cuba。店の中に車イスの画家がいて、お客の 絵を書いては係りの人がお客に手渡していた。隣に座っていた女性客がもらったのち、私の絵を書き持ってきた。心尽くしをお願いするとのことで、とりあえず隣の女性客に どうしたか聞いたところ、彼女たちはフランス人であつたが、絵がいらないければ返してもいいが、いくらか払うべきだという。あなたの絵にはどうしたかと聞くとそれはプレゼントだとしてもらったという。そんなものかと一応 \$1ほど渡して帰る。文化の違い であろう。

ここから、ツキが悪くなる。加藤さんとセントロまで来て、エル・パティオで待ち合わせたものの、30分立っても来ないので中で食事の注文を 待っていると、さらに15分ぐらいたって来て、彼はキューバ人から食事に招待された のでそちらに行きますとのことになって出ていってしまった。お互いに一人旅なので、待ち合わせをする必要はないと思っていたのだが、うっかり待ち合わせを決めてしまったのが、誤りであった。お陰で、河野さんのリハーサルに行くのがすこし面倒くさくなってきた。セントロからはかなり遠い。しばらく休んで意を徹してタクシーを拾いにいく。ここでキューバ人がタクシー探しに付きまとい最初\$20だったが、高いのでほか を探し歩き結局\$10で見つかる。彼は運転手から紹介料をもらっていたようだ。目的地はトロピカーナのあたりで、30分はかかる。目的地に着いたものの音楽が聞こえてこない。リハーサルは、11時から3時までと聞いており、だいたい始まりが遅いとの ことだったので、2時前に着いたがそれでも大丈夫だろうと思ったのが大間違い。受け 付けで河野さんのことを聞くとすでに帰ったとのこと。後で、河野さんに確認すると その日はリハが早く終わったそう。通常はバス事情で何時に人が集まるかいつも決ま っていないが、その日は早くからメンバーが集まったのさうだ。とりあえず、現金も 底をついてきたので、バスでセントロに帰ることにした。バスに乗り込んだとき一斉に 注目されるのがなんともいえない不安な気持ちになる。持っているお金を渡すとかかなり のお釣が帰ってくる。バスで40分ぐらいでセントロへ。音楽博物館でのバンドのリハ のことも忘れて、まちをぶらつくことにした。ここからは、社会主義キューバの庶民の 暮らしの取材である。

★社会主義キューバの暮らし(取材)

日本だと普通に歩くと店があちこちにあり、物がいっぱいあるが、キューバ人はどこで買い物をしているのだろうかとセントロの店らしいところを歩いて みる。肉屋らしきものがあり覗いてみると物が無い。基本的には配給用の手帳があるのでそれに記載していくのだが、もともと物が入って来ないのださうだ。パン屋にも行ってみる。夕方だったが、ちょうどパンが焼きあがったところで、配給を求めてくる人や 子どもがお使いに来る。パンは手で輪を作ったぐらいの大きさで、1日一人1個の配給。パン屋のおばさんは、私に貴重な1個をくれた。

音楽専門店の店員のおばさんによると1か月の給料は128ペソ(\$5)ぐらいであるとのこと。数年ぐらい前からドルが流通し、世界中で通用するドルで物が売られるようになったとのこと。

実は、キューバペソでも観光客が両替するときは1ペソ=1米ドルである。キューバ人のペソの貨幣価値は米ドルと全く違うので、キューバペソ専用の店と、米ドル専用の店が2種類存在する。平均的なキューバ人が利用する店洋服屋、食料品店にはほとんど物がなく、あってもあまり品質いいとはいえない。ところが、人が並んで店の外で待っているような店を待っている人に聞くと米ドルの店だとのこと。アフリカの家の店員に聞いたところでも同じ返答が帰ってくるし、夫と別れたとか、病気だとかで、子どもを抱えて大変だと嘆いていた。本来コツコツやっている人が、生活に困窮する中、旅行客目 当ての商売や売春がはびこるのは経済論理では至極ありうる話である。私たちのカレー 代ぐらいが1か月分の給料で、家族が生活していかなければならない計算になる。一方で、街で見た小学校の活気のある子どもたちを見たり、若い男女の素敵なカップルを見たりすると、物の溢れている日本の若者との違いに失望を感じたりする。

ひととおりセントロを歩き回って、ホテル・イングラテラで飲み物を頼み休憩。雰囲気はなかなかよい。次に、ホテルプラザへ行き旅行代理店で本日の夜のお勧めを 訪ねる。新市街地のホテルハバナリブレのトルキーがいいのではとの話にな

り、そこを 目指すことにする。とりあえず、ここからバスで新市街地まで帰ろうとしたが、キュー バペソがないので、ロビーにいた女性でサンヨーのラジカセを買った人に声を掛けて両 替してもらおうようお願いしたが、コインを恵んでくれた。バスを探している人々に聞いて歩くがよく分からず、とりあえず大通りにバスが来ていたので新市街地に行く かを確認してのったがこれが逆方向であった。このバスは変わっており、自転車とバイク専用のバスでバスの中にぎっしり入る。どうやって降りるのかと心配したが、これは 入り江の対岸を行き来するシャトルバスであった。帰りもそのまま帰ればいいのものを、親切なキューバ人が新市街地行きはあちらからバスが出ているといわれ、15分ぐらい待ってきたバスに乗り込む。終点まで行ってそこから、ホテル・ハバナ・リプレを目指す。ここのショーのプログラムを見ると大したことなさそうである。

ラ・セシリアの件があったので、止めてトロピカーナをもう一度見ることに。そのままホテルで 予約をしようとしたが、すでに午後7時を回っており、受け付けは終了。個人で直接行くしかない。ホテル・プレジデnteに帰り、一休みをしてまた、バスで行こうとしたが、バスが来ない。午後9時を回ってしまい、結局タクシーを捕まえて到着するとすでに 20分ぐらい経過していた。今回はB席で入ったが、日本人と伝えたと他の日本人が一 人いる席に案内された。特別席とは違い、あまりいい席ではなかったが、2回見てもすごいショーである。帰りも、白タクを利用して帰る。今夜が最後なので、再度パラシオ・デ・ラ・サルサへ。午後11時ごろであったが、1ステージがスタートしたところであった。最初のバンドは、フランスからBrio Chinoというラテンポップの バンド。あまり面白くないので、もう一つ別のクラブ“Cafe cantante mi Habana”へ。

★Cafe cantante mi Habana(クラブ)
(Teatro National)

Paseo y 39, Plaza de la Revolucion
TEL: 79-6011, 79-3558 入場料は\$5。

タクシーの運転手にも聞いたところ、ローカルの キューバ人が踊るところとして教えてくれた。運転手は、Teatro Nation a lと言っていた。新聞をみるとCafe Cantante MiHabanaと両方 併記されている。出演バンドは、
“Manolito Simonet y su Trabuco”

演奏はなかなかよかった。ここはカサ・デ・ラ・ムシカよりはかなり広く、すごい人でごったがえしていた。作りはシンプル。雰囲気はそんなにいいほう ではない。席もなく、立っていると例のごとくキューバ人の若い女の子が踊ろうと寄ってきてしばらくいっしょに踊る。ほかのクラブでもそうだが、ペア・ステップを知っている女性はほとんどいなかった。一人で踊る方がすきなようであった。これもお金目当て。コーラをおごって、ほかの女性からも声をかけられたので、話してみるとまともそうであったが、これもお金目当て。お金がないからほかをあたってくれという、しばらくしてそうするとのこと。面倒くさくなって、パラシオ・デ・ラ・サルサに戻る。

再びパラシオ・デ・ラ・サルサへ

2つ目のバンドは、サルサのバンド。“Conexion Salsera”。ここで、ダンスのすごいカップルを見る。話 かけると男性の黒人はキューバ人でイタリアでダンスを教えており、そのほか女性が5 人ぐらいいたが、イタリアでダンスをいっしょにやっている人たちだそうで、旅行で来たとのこと。やたらイタリア人のダンスが目立つ。しばらくして、帰ろうと入り口で預けた荷物を受け取ろうと順番を待っていると、列の前にいたカップルの男性がこちらを 向き話し掛けてくる。バラデロで会いましたといっている。ディスコですごい踊りをしたカップルである。何という偶然。メガネで覚えているという。彼女はイタリア人で、1年以上前バラデロに旅行に来たときに知り合ったそうで、今回もバカンスで来てあれ からハバナに来たとのこと。どうしてダンスがうまいのかと聞くと、血が違うということ、自分は回転するのがすきだからといっていた。残念ながら、もう一度ダンスを見たかったのだがそれをいうのも忘れ、イタリアの住所を聞いて別れる。感じのいい男性 であった。二人はまもなく結婚する。

9月6日

ハバナ

キューバ最終日、午前10時にホテルを出て、タクシーで空港へ。空港は2つあるそうで、どちらの空港が確かめないといいない。ホテルで確認していくのがよい。空港の売店で、キャバレーの踊り子を形どったキーホルダーを買う。これは かわいくてお勧め。CDもカードで買える唯一の店があり買い忘れたものを買う。葉巻 もプレゼント用に買う。待ち合いロビーで日本人何人か見かける。加藤さんとは帰りの 飛行機も同じ。

[上 口さんへのメールはこちらへ](#)

[次へ](#)
[トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)
[YUMURI Home Pageへ](#)
[MARACA Home Pageへ](#)

★一般的な支払い方法

支払いは米ドルですべて足りる。米ドルで払っても、ペソでお釣がくることがあるが、まったく問題ない。ごちゃ混ぜでも使用可能。1米ドル=1ペソ。ただ、キューバ人が使うペソは違っており、貨幣価値もまったく違うので旅行者は基本的に出会うことはない。ただ、バスに乗るときはこのお金が必要。クレジットカードはホテルでは使えるが、アメリカンエクスプレスやアメリカ発行のビザは受け付けない。日本のビザやマスターは大丈夫。トラベラーズチェックも同様である。成田空港ではアメリカンエクスプレスのチェックを発行しており、それを買ってしまい困ったが、なぜかリビエラの両替所では交換してくれた。1割の手数料を取られる。

★キューバ国内ツアー情報収集の方法

ホテルのツアー 会社HAVANATURには、ツアーのリストと時間、料金表があるので、親切。ツアーの中には曜日が決まっており、特定の曜日しか出発しないものもある。私が、行きたかったコナツツの水郷地帯があるGUAMAのツアー\$36は、火曜日のみで、私はパラデロに行っているため、あきらめるしかなかった。ツアー会社の人の勧めはビジャーレス・ツアー\$38で、洞窟めぐりポートツアー、たばこ工場、内陸部の自然めぐり。このほか、パラデロ日帰りツアー火曜日、土曜日、日曜日のみで、\$38。これに海の中を見るクルーズ付きで\$55。ホテル付きの1泊2日だと\$135。土曜日のみ。市内観光\$10。あと、TROPICANAの送迎付きツアーやその他のキャバレーPARISIEN(ホテルNATIONAL DE CUBA内)などいろいろ楽しめるツアーもたくさんある。ホテルまでの送迎付きで、料金は個人がタクシーを使っていくよりは安く安全。私は、白タクを使っていたりしたが、一般には帰りが深夜になることを考えるとあまり個人でいくのはお勧めではなく、お金も高つくので、ツアー利用がいいと思う。

★イベント、ライブなどの情報収集

ホテルの旅行代理店のところに、「CARTELERA」(スペイン語であるが一部英語併記もあり)という週刊新聞がおりてあり、無料でくれる。コンサートや劇場の情報だけでなく、レストランや博物館、タクシー、銀行、映画などいろいろ。特にチェックしたいのが、CABARETS(NIGHT CLUBS—ライブやショーがある)の欄とDISCOTECAS(DISCOTEQUES)。だいたい午後9時から10時スタートで、午前5時まで。バンド名までは出てないが、住所や営業日・時間、電話番号が載っているのでもし、スペイン語ができなければ、旅行代理店の人に頼んで、どんなグループが出演するのか、聞いてもらって書いてもらえばいいだろう。あとは、ホテルで聞か、CD屋で聞か、音楽事務所に問い合わせてもらうやり方もあるとある本に書いてあった。ラジオを聞くということもいわれているが、スペイン語がわからなければ無理。これらのクラブは、だいたい月曜日が火曜日が休みなのが多い。もちろん、どこも週末が盛り上がるので、それにあわせて行ければ一番いい。後は、ホテルで場所を確認し、夜が遅いのでタクシーに乗ることとし、そこまでの相場を聞いてタクシーをひらう。帰りの心配であるが、どこもタクシーは外で待っている。特に、白タクはよく聞いている。また、夜遅くなるとメーターのタクシーもメーターを使わないようなので、行ったときの料金を目安に交渉すること。昼間よりは少し高くなる。

★日本で収集する情報

●インターネット

インターネットで収集できる情報の参考例。このなかでもお世話になったのが、キューバのバンドyumuriのホームページ(パシオ・デ・ラ・サルサの紹介もあった)。また、日本のサルサバンド・チカブーンのホームページには彼女たちのキューバ公演の様子や、最近では、キューバ情報のコーナーもあり、とても参考になる。チカブーンの森村さんとは、e-mail:mango@kiwi.or.jpでキューバの情報をいろいろ教えていただいた。とても感謝している。

<http://www.kiwi-us.com/~mango/yumuri.html>
<http://www.kiwi-us.com/~mango/chicaboom/>

また、ホテルの手配などですばやい対応とe-mailで連絡がつく Vinalesのホームページもある。
<http://www.spin.com.mx/Vinales/>

そのほか、いろいろ探したキューバ関係の情報が以下のとおり。

<http://interhealth.com/cuba/tourist.html>
<http://www.belize.com/cubatrip.html>
<http://www.charm.net/~ibc/smokin/cuba.html>
<http://www.lonelyplanet.com/dest/cam/hav.html>
<http://www.cubaweb.cu/>
<http://itre.uncecs.edu/music/cuban-music.html>

●ガイドブック

「キューバ大情報カリブ海の穴場」(樋口聡)三修館1996
 「地球の歩き方カリブ海」1996

この2冊があるととても便利で、実際にはほとんどの事前情報はこの本に頼った。「新世界のビート」(村上龍・河野)新潮社1993—この本は本屋に注文しても出発前に入手できず、まだ見ていないが期待できる内容だと思う。

●旅行会社

今回利用したのは、アクロス・ラテン・セクション。Tel 03-3340-6744 Fax 03-33 40-6760。私は、大阪支店を利用した。Tel 06-345-0150 Fax 06-345-0191。担当の安食(アジキ)さんはとても親切であった。

●インターネットでメキシコの旅行代理店を見つける

メールまたはファクスでキューバ旅行の相談が英語でOK。翌日には返事が入っている。飛行機やホテルの手配をしてくれる。変更も可能である。しかし、私の場合、直前までいろいろ変更したりしたので、結局今からでは手配できないので、すべてキャンセルしますとの連絡が入り、現地で直接やりとりしてくれとのこととなってしまった。日本からだと時間がかかるホテルの予約や、予約そのものもできないホテルや国内線の飛行機の予約も短時間でやってくれた。結構、頼りになる。しかも、スーパークラブパラデロについては、\$115で送迎もついているとのこと、実際私が支払った\$140+\$60=\$200より、半額近い値段となっている。以下がホームページのアドレスとメールアドレスである。

Vinales Tours <http://www.spin.com.mx/Vinales/>

Jose Manuel Covarrubias fax:+52-5-208-3704

— 01 NIGHT AT SUPER CLUB VARADERO WITH ALL INCLUSIVE 115.00 USD

— 01 NIGHT AT LAS AMERICAS HOTEL IN SANTIAGO DE CUBA WITH

TRANSFERS— APTO SANTIAGO / HTL LAS AMERICAS / APTO SANTIAGO AND BREAKFAST INCLUDED 60 USD

— TICKET HAVANA / SANTIAGO / HAVANA 150.00 USD

— TOURIST CARD 20.00 USD

キューバでの連絡先: 33-1051, 33-1053

●キューバ国内の飛行機のフライト情報

これは、キューバだけでなく、全世界のフライト情報がわかるパソコン通信のOFFICIAL AIRLINE GUIDEが便利である。パソコン通信のニフティで、GO OAGでも接続できるし、目次の海外旅行からでも接続できる。1分間80円とお金はかかるが、出発地と目的地の空港をインプットし、日にちをいれると瞬時に時刻表がでてきて、旅行日程を立てるのに非常に便利である。例えば以下のように表示される。

From: HAVANA,CUBA Departs: TUE-03 SEPTEMBER, 1996 To: SANTIAGO,CUBA On- Travel # Departs Arrives Flight Equip Meals Stops Time Time No earlier direct flight service 1 700A HAV 835A SCU CU 984 YK2 0 1:35 2 740P HAV 915P SCU CU 986 YK2 0 1:35 No later direct flight service ENTER A COMMAND: (#=LINE NUMBER) A# =fares available RS =return schedules CX = connecting flights F# =fares offered P =reset preferences X# =expand flight ? =Help with Commands

★タクシーの乗りかた

基本的にタクシーにメータがついているのが、正式であるが、白タクの方が交渉で安くなる。その乗りかたとしては、メータのタクシーに値段を聞いたあと、白タクと交渉。メータが\$10ならば、だいたい同じぐらいで、\$10とすると、\$6といってみる。そうすると、\$8でどうかということになり、交渉成立。もっと値切っても大丈夫な場合も多い。とりあえず、\$6でないとだめだと言って無視して歩くと追いかけてくる場合が多い。それでだめなら、ほかをあたる。

ハバナのホテル情報

★ホテル事情 ハバナのホテルをいろいろみたが、その内容を紹介します。

●新市街地

★ハバナ・リブレ

かなり大きいホテル。部屋に入っていないのでわからないが、新市街地のにぎやかなところにありショッピングには便利。ショーもやっている。料金も\$60ぐらいとあまり高くはない。

★メリア・コイバ

リビエラの隣である。一流ホテルといたたたずまい。料金も高く、リビエラで十分。新しく出来た5つ星のホテルである。

★ナショナル・デ・クーバ

新市街地の海に面した小高い丘に立っており、由緒ある一流ホテル。多少高いがここに泊る価値はありそうである。また、キャバレーパリジャンもある。

★HOTEL RIVIERA

これは一番お勧め。料金もリーズナブル。周りには何もないが、なんといってもパラシオ・デ・ラ・サルサが併設されており便利。直接だとシングル\$80。代理店で\$58。日本から5500円。ホテル・リビエラは、とてもよかった。まずロビーからしてかなり広く、海沿いにはカフェテラスもあって、雰囲気はグッド。部屋もきれいで新しい。ホテルは改装しているところもあるが、改装後のところはとても感じがよい。朝食のバイキングもかなり豪華で朝から腹一杯食事が楽しめる。プールも併設されており、プールサイドでは、サルサのバンドの演奏があった。バンド名はわからないものの乗り乗りでとても楽しかった。ただ、プールのお客はバンド演奏に関心がないのか、まったく乗っていなかった。ホテルには、チェックの両替所のほか、旅行代理店が4つ入っており、ツアーを頼むのには最適。料金表もあるので、わかりやすい。また、ロビーでCDを売っており、これがだいたい\$13-17で、試聴もさせてくれる。セントロでは、これより高い。ただ、現金のみの取り扱いとなる。ホテル代金は日本から予約したので、5,500円\$50であったが、直接聞くと\$80といわれた。ホテルのロビーの代理店を通すと\$58で、日本からの予約が一番安かった。また、キューバーのサルサクラブ・パラシオ・デ・ラ・サルサも併設されている。

★ホテル・プレジデンテ

料金的に日本から予約すると損。場所もよくない。日本から予約でき、国立民族舞踊団に近いということもあって、日本人もよく利用するらしい。が、しかし、ここはお勧めではない。新市街地にあるものの中心部には遠く歩いていける距離ではない。ホテル・リビエラのようにサルサ・クラブや近くにディスコがあるわけではない。国立民族舞踊団はリビエラとの中間ぐらいで、ホテルの間が徒歩10分ぐらいなので、ど

ちらに泊ってもいい。プールもプレジデnteは小さく海から少し離れているので、雰囲気はよくない。エレベーターの一つは故障している。ボーイもすぐにチップを要求する。また、建物自体が古く、部屋のまどがすごく小さい上に、格子があつて隙間からしか外が見れない。さらに、バスルームに足マットがない。洗面具も簡単なものしかおいていない。なぜここまでいうかというと、日本からの予約だと5000円で、リビエラが5500円と500円の違いでこんなに違うのかと思わせるからである。実は、直接頼むと一人の料金で、リビエラが\$80、プレジデnteが\$39なのである。この金額であると納得が行く。日本からの料金設定がおかしいのである。

●旧市街地

街を散策するには、旧市街地が絶対に面白いので、リビエラだけでなく、旧市街地のホテルに泊って、ゆっくり散策したい。歩くと疲れるので、ホテルに帰って休憩したりできる。観光スポットはほとんど歩いて回れる距離。

★イングラテラ

カピトリオにすぐ近く便利はすごくいい。古い雰囲気の良いホテル。直接だとシングル\$66、日本からは5500円。そこにとまった日本人によるとサービスはよくないとのこと。生バンドもある。

★プラザ

イングラテラに近い。ロビーは小さく高級感はない。アットホームな雰囲気。シングル\$70、日本からは5800円。イングラテラと比べると高い。イングラテラの方がお勧め。

★セビージャ

これは一流ホテルといった感じで、料金も結構高く日本からだ7700円。ホテルのロビーも広く、お店も何軒が入っている。

●プラヤ地区

★コパカバーナ

リゾート的なホテルと宣伝しているが、まあまあレベル。メリア・コイバやリビエラを見ると窮屈な感じがする。

★CD & VIDEO購入

キューバといえば音楽。どこでCDを買うかであるが、一番安かったのが、空港の出発ロビーの売店。ここだけは、クレジットカードが使える上に\$15と安い。ただ、帰る直前なので買い忘れたものを買うという感じになる。一般的に、CDはあちこちの博物館の売店でも売っている。中には音楽ビデオも売っていた。例えば、セントロの市博物館。革命博物館でもCDあり。もちろん、音楽博物館(MUSEO NACIONAL DE LA MUSICA)もいろいろCDがある。お土産そのものがキューバ音楽であることを実感した。値段もどこもだいたい同じ。\$17が相場。音楽専門店はどこも試聴させてくれた。そのほか、数は少ないが安かったのがホテル・リビエラのロビーで売っていたもの\$13-17ぐらいであった。専門店としては私が行ったところしかわからないが、プラヤ地区のVIDEO IMAGENES、セントロ・フェルサ要塞の近くのPARACIO DE ARTE SANIA、新市街地の中心部のTIENDAS ART EX(ティトニエベスなどニューヨークサルサも売っていた)。セントロのカピトリオの道路を隔てた反対側のお店にも売っていた。それぞれの状況は別項目で紹介。◇ホテル・プレジデnteから、近いといわれる国立民族舞踊団を探すクラシックダンス学校はわかったものの、分らずあきらめる。その後、ホテル・ハバナ・リブレの前の音楽専門店"TIENDAS ARTES"へ。その後、国立音楽博物館、革命博物館を見てホテルに帰る。町中で中学校の体育の授業を歩道上でやっていたのは、なかなか楽しそうではなかった。

★Tiendas Artex Calle L y 23, Vedado

音楽専門店、新市街地ホテル・ハバナ・リブレの前にある。ビデオはなかったが、CDは充実している。ニューヨークサルサもあり。値段は\$17。そのほかにもコンガも売っており、専門店としては一番数が揃っているようであった。ただ、他の店でいろいろ見ていたので、ここでは一枚も買わず。

★Museo Nacional de la Musica Capde vila 1 e/Habana y Aguiar, La Habana Vieja

月曜日は休み。TEL: 61-9846。入場料は\$2。ガイドブックには無料というものもあったが、新聞にも\$2とあったので、変更になったのかもしれない。

売店にCDがたくさんあったので、いろいろ試聴させてもらい数枚購入。結構店員はひまそうで、ダンスの格好をすると結構楽しく会話が発展する。店員のMARIAが写真を撮って送ってくれというので写真を撮る。また、小さなホールでリハーサル中というボーカルの女性が休憩でその店におり、いろいろ話をすると、練習を見に来いとか、博物館のガイドはいらないかと世話をやいてくれる。まずは、ガイドを\$1でお願いする。スペイン語のみであったが、結構意義はある。入り口にはBENNY MOREの写真やレコードが陳列されているほか、2階にはアフリカから来た奴隷がもたらした楽器が部族ごとにならべられていたり、世界各国の弦楽器やピアノなど様々な楽器が展示されている。中でも、面白かったのが、キューバ音楽を奏でる楽器の数々の実演。ガイドが実際に展示品を操作するのであるが、レコードより前の筒上の録音装置や、かなり古い蓄音機、自動演奏のピアノ(足で動かす)、紙に穴があいていてそれで鳴らす楽器(楽器名は控えていない)、オルゴールなどなど古きよきキューバ音楽の当時そのままの音が鳴り響く。タイムスリップした感じである。\$10で、5分間のビデオ録音をさせてもらった。小さい博物館であったが、この展示は印象深かった。後で、小さなホールへ覗いてみると、確かにバンドがリハーサル中であった。特にフロントのダンサー3人が練習中で生演奏とテープで何度も練習していたが、ダンスはあまり決まっている風ではなかった。バイオリンも入っていた。このバンドはブラジルで演奏するためにリハーサルをしているとのこと。翌日にはプロモーションビデオを撮影する予定だとのこと。バンド名は、ORQUESTA PANORAMA。Directorは、Alberto Corrales subda(Calle 6 # 11, Entre A y Soleda, 11100 TEL: 97-9243)。ボーカルの女性は、Cariad Cruzvilain。

[上口さんへのメールはこちらへ](#)

[CENTER>トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)

[YUMURI Home Pageへ](#)

[MARACA Home Pageへ](#)

8月31日

メキシコシティ

メキシコシティに夕方到着後、空港でタクシーチケットを購入後、インターネットを通じてメキシコのビニャレスの旅行会社から、メキシコで一番のサルサクラブ・LA MONTANAに近いということで推薦のあったHOT EL DIPLOMATICO(\$37)に直行。日本から電話ですでに予約済み。中心部からすこし南に位置し、タクシーに中心部と値段が違うということで、すこし余分にお金を要求される。すでに真っ暗になっており、ホテルでサルサクラブの場所を聞いてもらっても、それはほとんど知られておらず、なんとかしてわかったものの電話も通じず。電話帳と地球の歩き方、ホテルにあった観光ガイド(ナイトクラブの欄にサルサとかメレンゲとか、マリアッチとか記載がある)をくまなく調べて、電話をかけ、サルサクラブを調べる。この結果は、9.6のメキシコシティのレポートに記載する。とりあえず、“LA MONTANA”と地球の歩き方にあった“SALON MARACA”を目指して行く。ホテルのフロントでいろいろサルサのことを話す内に、ボーイがそこまでタクシーで案内してくれることになった。“LA MONTANA”は閉店中。“SALON MARACA”へ。日本から来たとボーイが告げてくれたが、その時は、学校の卒業パーティの日で見てもいいがおもしろくなかったらすぐに出ていいからとオーナーの部屋から無料で入れてもらう。帰るときも、ここを通過して来てくれていいからと親切。ボーイもそれではとチップも受け取らずに帰った。彼の帰りのタクシー代も払っていないような気がする。あとで分かったことだが、LA MONTANAは、同じような名前が雑誌で確認され、LA MONTANA CARIBBEAN DISCOがこのホテルの近郊にあった。多分これはカバーチャージをとっているの、いいバンドが出演するものと思われる。

★SALON MARACA

住所: Av. Eugenia Esq. Mitla, Col. Narvarte. Tel: 682-0636, 682-6444

夜の10時半ごろであったが、ちょうど学校の卒業パーティが始まったところで、正装した若者がステージに大勢あがってくる。客席には家族や友人ばかり。卒業証書や賞状の授与などの簡単なセレモニーが続いたあと、ダンスパーティに。会場はかなり広く、400人ぐらい入るのではないかな。真ん中にステージと一段高くなったダンスフロアがある。生バンドが演奏する音楽は、クンビア(これが一番多い)、サルサ、メレンゲ。一曲ごとにダンスフロアに上がり、終わると全員帰り、曲が始るとまたあがるというシステム。2階席もあり、そこにもダンスフロアがあり、どこも超満員のフロアで踊っている。テキーラサンライズを飲み(25ペソ)その様子を見てみると、近くに座っている女の子たちがこちらを見ているので声をかける。周りではスペイン語を話すのかといろいろな言っている。結局ダンスを踊ろうということになり、それからずっとダンスを踊る。あまりステップを知っている様子はなく、簡単なステップで終わった。全体的にも本格的なダンスはわずかであった。結局2時半までそこにいて、みんなでタクシーで帰る。ホテルまで送ってもらった。

9月6日

メキシコシティ

加藤さんの荷物が税関でチェックを受ける。ココナッツの人形が持ち込み不可となった。もともと、税関の申告書を手せずいきなりチェックのカウンターに行ってしまったのが不運。申告なしのペーパーを持って、通常のカウンターに行き、青か赤のボタンを押して、赤だとチェックを受けるが、青だと通過するところへ行けばよかった。空港を出てから、日本人の若者2人と計4人で、地球の歩き方で紹介されていたホテル・アベニダへ。ここでも、最初の日と同様、空港で買ったタクシー券と運転手のいうことが違い、料金が違うと言い張って譲らない。私も地図を持っていたので、地区はあっていると主張してがんばりはいったのだが、それならここで降りるとケンカだし。少しお金を足して\$2ぐらい、ホテルまで行ってもらった。キューバから到着便が午後2時20分着なので、博物館などは難しいが、メキシコシティの中心部の散策は十分可能であり、特にナイトクラブなどは何軒かはしごできる。

★Hotel Avenida

Eje Lazaro Cardenas No. 38, Corazon de la Ciudad
TEL: 518-10-07

地球の歩き方で紹介されていたホテル。シングル65ペソ。ツイン二人で95ペソ。地下鉄駅SAN JUAN DE LETRANがすぐ前。前の通りはLAZARO CARDENASで、ラテンアメリカ塔やマリアッチの広場ガリバルディ広場に通じている。夜になると結構静かな地区。やはりソナ・ロサ地区の新宿のような賑わいはない。質素なホテルであるが、値段と地下鉄に近いことを考えれば結構お勧め。

◇ホテルから地下鉄に乗って、CDを求めて、ソナ・ロサ地区のMIXUPとTOWER RECORDへ。地下鉄は1ソルでコインを入れて入場し降りるのは自由。日本の地下鉄とおなじシステムで乗り換えも自由。地下鉄内はニューヨークのような浮浪者も見かけず、きれいである。地下鉄の駅はLINEA 1のINSURGENTES。このあたりは賑やかでメキシコシティの繁華街。散策するのも楽しい。キューバから来るととても涼しいというか寒いぐらいで、みんな上着を着ている。とてもTシャツ1枚というわけにはいかない。

★MIXUP

Genova 76 Loc. 26 Col. Juarez TEL: 207-0141 地下鉄INSURGENTESから近く。CDは、かなり豊富でタワーレコードのよう。ただ、ラテン音楽の専門ではない。ここは、すべてのCDの試聴が可能で、ブースのようなところでヘッドホンで聞かせてくれる。私は10枚ぐらいお願いしたがそれもOK。ちょうどドイツからの観光客も試聴していた。カードで買える上に店員も多いのでとにかく便利。

★TOWER RECORD

Niza, 19 Zona Rosa

MIXUPから徒歩5分ぐらい。日本のタワーレコードの品揃えと基本的に同じようで、日本にないものはやはりここでも流通ルートにのっていないようで、展示されていなかった。結局なににも買わず帰る。

◇ソナ・ロッサはぶらぶらしても、繁華街でなかなか楽しい。メキシコ料理店を探そうと通りで声をかけた大学生グループがとても楽しく、明るかった。心理学を専攻している仲間だそうだ。ただ、旅行者には危険なので気をつけるように言われた。レストランは、SANBORSA。セット料金でそんなには高くない。いったん地下鉄でホテルに帰り、サルサ・クラブとマリアッチを目指す。ホテルからはタクシーで数分。

★Pl de Garibaldi(マリアッチの広場)

タクシーで着いたのが、午後10時30分頃であったが、すごい人でごった返していた。広場にはマリアッチを演奏する4～5人のグループとその演奏を聞く人(カップルが多い)の輪が、いたるところにできており、音楽が輻湊してまうほどである。マリアッチの衣装や帽子はメキシコらしさを感じさせる。これは、1日中続いているようで、翌日空港へ6時ぐらいに通過したがまだ演奏していた。昼は昼でまた、別のグループが演奏しているよう。また、冬でも外でやっているという。この広場の周りにはダンスホールも多く、マリアッチやサルサもある。相当な賑わいであるが、あまり若い人はいない。洗練されたスポットというものではない。

★Salon Tropicana de Mexico

Eje Central Lazaro Cardenas 43(Esq. Plaza Garibaldi)
TEL: 529-7316

マリアッチの広場の一角。入場料10ペソ。中はかなり広い。金曜日とあって超満員でテーブル席とステージのほかに一段高くなったダンスフロアが2箇所設置されている。ダンスフロアは人が落ちるのではないかとというぐらいにひしめき合っている。400人ぐらいいたのではないだろうか。バンドは生バンドが何度か入れ替わり演奏。曲目はクンビアが多く、ときどきサルサがかかる。踊りかたは、キューバ式である。ステップをうまくやっている人は少ない。面白いのは、曲が終わると全員とりあえず、ダンスフロアから降りて、次の曲がかかるのとまた、カップルであがっていく。これを何度も繰り返すので曲が変わると降りる人上がる人でさらにごった返す。ここの年齢層は高い。30-40代が中心かと思われる。それ以上も多い。それ以下は少ない。

★Salon Tropicoso

Reforma y Niza #260(ソナ・ロッサ地区)
TEL: 533-0908

ここは、現代風なディスコの雰囲気をもっており、おしゃれな感じ。それほど大きくはないが200人ぐらいがはいれる広さ。生バンドがあり、メレンゲやサルサを演奏していた。バンド名は不明だが演奏はうまい。こちらは若いカップルが多く、ダンスもうまい人が多い。ウェイターが多いのでチップを要求される。ただ、店員の感じはあまりよくない。

★メキシコのタウン情報誌 DONDE

週刊の情報誌で本屋で売っている。スペイン語であるが、目次の一部は英語で表記してある。映画、博物館、ナイトライフ、ギャラリー、カフェテリア、ショッピング、レストランなどが紹介されている。オールカラーである。また、地図もついており、店の場所が地図ですぐ確認できるのがとても便利。電話番号も載っている。ライブでいえば、上の2軒のほか、MENEIO、LA MONTANA CARIBBEAN DISCOがいいといわれた。この2軒は近く、世界貿易センターあたり(SUR INFURGENTES通り)。

9月7日

メキシコシティから帰国の途へ

朝5時半にホテルを出て、昨日乗って感じがよかったタクシーに出迎えをお願いしたところ、すでに待っていた。

◇サンフランシスコ経由で、成田、大阪(伊丹)、新幹線で広島へ。大阪～広島の新幹線のゆれは飛行機に比べ疲れた体に響く。いつも、海外旅行の帰りの新幹線が一番疲れる。

[上口さんへのメールはこちらへ](#)

[トップへ](#)

[Chica Boom Home Pageへ](#)
[YUMURI Home Pageへ](#)
[MARACA Home Pageへ](#)